

## SJ

The Safety Japan  
since 1971

## Close Up

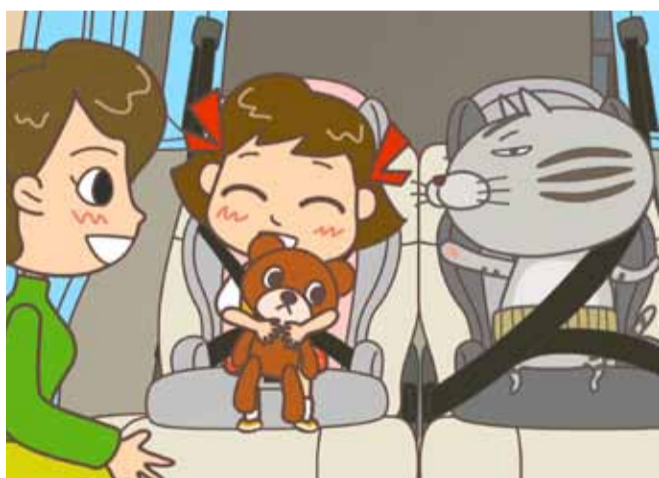
クローズアップ 教育プログラム①

## 駐車場に潜む危険と、事故に遭わないための安全行動を幼児に理解してもらう

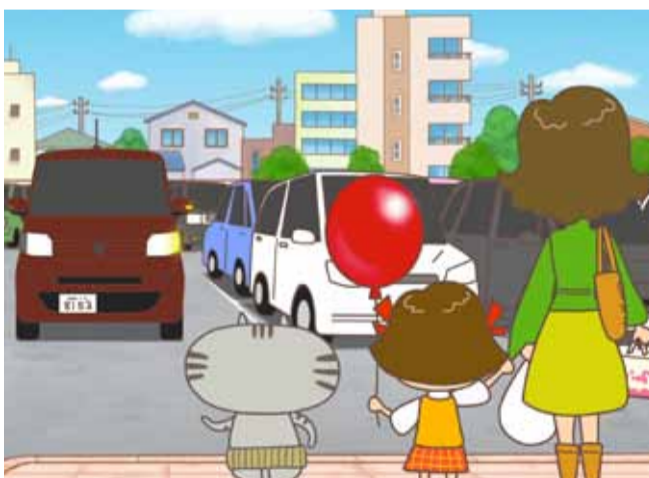
Honda は様々な年代や社会のニーズに合わせた交通安全教育プログラムを開発し、地域の交通安全指導者に提供している。その一つ、幼児向けの教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」に「ちゅうしゃじょうのおやくそく」を追加した。商業施設や自宅の駐車場に潜む危険と、事故に遭わないための安全行動を理解してもらうために開発されたプログラムの特徴について紹介する。



駐車場でクルマを降りたら、すぐに保護者と手をつなぐことを強調



ストーリーにはシートベルトを締めることの重要性や、ウィンカーなどクルマのランプの意味についても盛り込まれている

駐車場内でのクルマと  
子どもの事故を防ぐ

「できるニャンと交通安全を学ぶ」は2017年にHondaが開発した5～6歳児対象の交通安全教育プログラム。幼児は直接見えないところに隠れているものを想像する能力や、他者視点に立つ能力は発達途上といわれている。そこで、このプログラムでは、指導者が手助けを行いながら子どもの発達に合わせ、「どこに危険があるか」を予測する学習をめざした内容となっている。「できるニャン」というオリジナルキャラクターが登場する映像（アニメーション）を活用して、幼児が指導者との対話形式で道路上の危険箇所を考えられるように工夫されている点が大きな特徴である。

これまでの道路を横断する場面「どろのわたりかた」に、今年8月、商業施設や自宅の駐車場で危険について考えてもらうための「ちゅうしゃじょうのおやくそく」（以下、駐車場編）を追加した。

商業施設の駐車場内を歩いている子どもがクルマと接触したり、自宅の駐車場で子どもが親や家族の運転するクルマによって被害に遭う事故は後を絶たない。（公財）交通事故総合分析センターの調べ※によれば、歩行者対四輪車の事故における歩行者の各年齢層の死亡重傷割合を「駐車場等」と「駐車場等以外」で比較すると、6歳以下では死亡重傷割合がほぼ同じであった。この結果から、6歳以下の子どもが「駐車場等」で事故に遭うと「駐車場等以外」で事故に遭った時と同じように死亡重傷事故につながる事がわかる。さらに、歩行者側の人的要因をみると、6歳以下では保護者等の不注意の構成割合が73%で、不注意の内訳は「手をつないでいない」が70%を占めている。また、地域の指導者から駐車場に潜んでいる危険を幼児にわかりやすく伝えるための教材を求める声もHondaに寄せられていた。こうした背景から、駐車場で事故に遭わないための安全行動を幼児に理解してもらえるよう「できるニャンと交通安全を学ぶ」に駐車場編を加えたのである。

映像は、「りっちゃん」という女の子がお母さんと一緒にクルマでショッピングモールに買い物に出かけるというストーリーになっている。ショッピングモールの駐車場にクルマが止まったとたん、女の子は一人でドアを開けて走り出してしまう。ここで映像が自動的に停止し、そのタイミングで指導者が子どもに問いかけ、「どうして一人でクルマから出たら危ないか」「クルマから降りる時、どうすれば安全か」考えてもらえるようになっている（P2参照）。このほか、自宅の駐車場で、お父さんが運転するクルマとぶつかりそうになるシーンもある。最後に「一人で降りない」「（保護者と）手をつなぐ」「（クルマに）近づかない」という3つの約束を確認してもらう。制作にあたっては、プログラムの開発途中で地域の交通安全指導者からアドバイスをいただき、それらを内容に反映させている。さらに、試作段階の映像を幼児に見せて、関心を持ってもらえるか、伝えたいことが理解できているかなど検証し、改善を重ねた。

※出典：イタルデザインフォーメーション No.115

## Contents

- P1 Close Up クローズアップ 教育プログラム①
- P3 Safety Report セーフティルポ 子ども
- P4 Close Up クローズアップ 教育プログラム②  
Close Up クローズアップ 交通安全対策
- P5 安全運転普及本部発足 50年
- P6 SJ Interview 弁護士 高山俊吉さん
- P7 TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する
- P8 危険予測トレーニング (KYT)  
SJ クイズ



## Safety for Everyone

Honda はすべての人の  
交通安全を願い活動しています。SJ ホームページは  

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1  
TEL：03(5412)1736  
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/>  
編集人：鈴木英樹

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。  
（株）アストクリエイティブ安全運転普及本部係  
TEL：03(5439)1191  
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp



駐車場編では安全な乗降車だけでなく、シートベルト（チャイルドシート使用）の重要性や、ウィンカーや後退灯といったクルマのランプの意味についても言及。シートベルトを締めたがらない子どももいることから、なぜ締めないと危険なのかに気づいてもらえるようになっている。また、クルマのランプについて触れているのは、ウィンカーや後退灯はクルマが次にどう動くかを周囲に伝えているということに興味を持ってもらうねらいがある。

**地域の交通安全指導者による活用事例**

駐車場編は、既に地域の交通安全指導者への普及が開始されている。9月8日、福井県大野市にある誓念寺こども園の園児を対象に実施された交通安全教室で駐車場編が取り入れられた。指導を担当したのは大野市の専任交通指導員、大野警察署の交通安全教育員と交通巡視員の3名。同市の認定こども園や保育園では保護者のほとんどが子どもをクルマで送迎している。園の駐車場から玄関まで歩くことになるため、駐車場内を一人で歩くと危険であることを子どもたちに理解してもらう必要性を専任交通指導員 湯口和歌子さんは以前から感じていた。駐車場編はそうしたことを子どもの目線で伝えられる内容だったので、すぐに使ってみることにしたという。交通安全教室を終えた湯口さんは「映像は物語風になっていたの、子どもたちはしっかり見てくれました。映像教材はたくさんありますが、『できるニャン』のプログラムは途中で子どもたちに問いかけ、考えたことを発表してもらう点が良いと思います。一度、自分の中に落とし込んで『自分なら、どうするか』考えることは安全行動を身につける上で大切なプロセスです」と話す。誓念寺こども園で5歳児のクラスを受け持つ細沢千恵子さんは「親しみやすいキャラクターが登場するアニメーションで、小さい子どもにわかりやすい内容だったと思います。クルマから降りる時、飛び出さずにはいけないことや、すぐにおうちの人と手をつながなければいけないことが伝わったと思います。交通安全教室の翌日から、園の駐車場でおうちの人と手をつなぐようになっています」という。



誓念寺こども園での交通安全教室。大野市の専任交通指導員 湯口和歌子さんの問いかけに園児が答える



小黒こども園の園児の意見を聞きながら進める静岡県交通安全協会 静岡南地区支部の交通安全指導員 岸山洋子さん

（一財）静岡県交通安全協会 静岡南地区支部も駐車場編を幼児向け交通安全教室に取り入れている。同支部の交通安全指導員 岸山洋子さんは「これまで、子どもたちに店舗などの駐車場に入出入りするクルマに対して十分に注意するように指導をしていました。『できるニャン』のプログラムは駐車場内での危険について扱っているの、私たちの指導内容を動画によって視覚に訴えることができるものだと感じ、取り入れることにしました」と話す。

9月10日に実施した静岡市立小黒こども園での交通安全教室で初めて「できるニャン」を使った岸山さんは、問いかけによって子ども自身が見えない危険について考えるきっかけになる上、子どもたちがどのくらい理解しているかを把握しやすいと手ごたえを感じている。「最後に忘れないでほしいポイントを強調しているので、交通安全教室で学んだことを子どもたちに再確認してもらうことができました。また、シートベルトの重要性やクルマのランプの意味についても登場するキャラクター



最後に駐車場で守ってほしい3つの約束をホワイトボードに掲示して園児たちと再確認



園児の意見を一通り聞いた後、どのようにすれば安全かを映像で確認する

がわかりやすく説明している点も良かったと思います」。小黒こども園副園長 三宅直子さんは「駐車場は安全なところだと子どもは思いがちですが、危ないところだということが今日の交通安全教室でわかったはず。自宅の駐車場でお父さんが運転するクルマとぶつかる危険があるということ、子どもはなかなか想像できません。それを気づかせるシーンがストーリーに盛り込まれていて、子どもたちも気づくことができたと思います」とプログラムの内容を評価した。今後、さらに全国各地の交通安全教室で活用が進むことで、駐車場でクルマと子どもの事故減少が期待される。

**～お子さまの安全のために～**

Honda では、お子さまが車外に放り出されることや一人で降車することを防ぐため、ドアをロックするノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする「チャイルドブルー」の活用を推奨している。詳細は以下のホームページを参照。  
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/master/kids.html>

**「ちゅうしゃじょうのおやくそく」概要**

**問いかけシーン①**



「どうして一人でクルマから出たら危ないか」考えてもらう



見えないところから別のクルマが近づいていることを示す

**問いかけシーン②**



「クルマから降りる時、どうすればいいか」考えてもらう



クルマを降りたら保護者と手をつなぎ、見通しの悪いところで止まって左右の安全確認することを強調

**問いかけシーン③**



「動いているクルマに近づくと、なぜ危ないのか」考えてもらう



クルマの中からは見えない死角があることを示す

**シートベルトの重要性とクルマのランプの意味を伝えるシーン**



お母さんが急ブレーキをかけた時、「りっちゃん」の持っているぬいぐるみが前方に投げ出されてしまうことで、シートベルトを締めることの重要性に気づいてもらう



ウィンカーはクルマが行きたい方向に点滅するものであることを伝える

**できるニャンと交通安全を学ぶ 幼児編 (DVD)**

収録内容	できるニャンたいそう
	どうろのわたりかた
	ちゅうしゃじょうのおやくそく
	指導マニュアル (PDF)

活用を希望される自治体、警察、団体の方は下記にお問い合わせください。  
 本田技研工業 (株) 安全運転普及本部 開発普及課  
 TEL 03-5412-1150